

二期目の市政担当に当たって。

淡路島の北部三分の一、184.21平方km、五町が合併した淡路市も、5年目に入りました。人口5万人弱、散在する町並み、風土の違い等の課題、平成17年、出発時点から莫大な借金を抱え行財政改革の大胆な断行を余儀なくされ、市民と共に痛みを分かち合いながら一期4年間を走り抜けました。幸いに、二期目もその様な状況下にあって、圧倒的な支持を受け、市政担当をする事になりました。

第一次産業を主体とし、お線香、精密機器などの地場産業以外に大会社が無い淡路市は、その市作り、未来開拓に当たって、夢、故郷、未来をキーワードに守りから攻めの市政へ舵をきります。イメージコンセプトは、世界的観光地への夢を求め、安全安心生活への故郷を作り、美しい淡路市への未来を創造する。

身の丈に合った地域コミュニティーの再生に努め、小なりと言えども、存在感において大都会に対峙する矜持を忘れること無く、良好なる故郷の環境整備と美化を推進します。

そして、最終の目標は、市民とともに、「世界的観光立島・美しい淡路市」を目指します。